

学内広報

for communication across the UT



特集：
学内広報ができるまで

2006.1.25

No. 1328

教職員の皆さんに親しまれている「学内広報」ですが、「学内広報に情報を掲載するにはどうすればいいのですか？」という質問もしばしば寄せられています。そこで今回は、学内広報が制作されるプロセスについて特集します。「学内広報」は、皆さんに送っていただく記事によって成り立っているのです。

水曜日

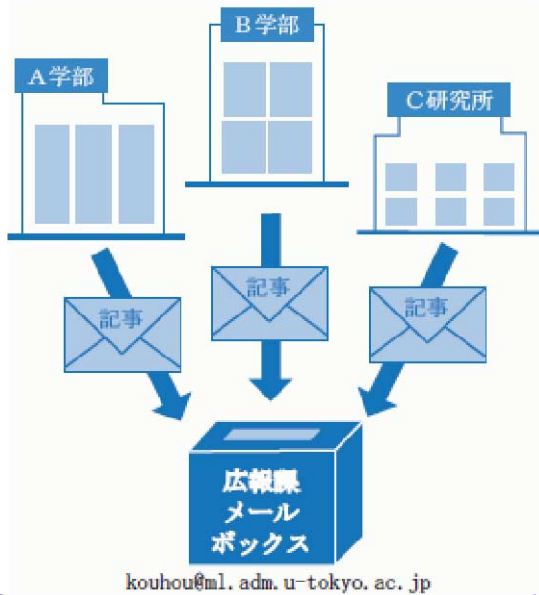
原稿〆切

～学内広報の材料～

その① <NEWS&INFORMATION>

執筆：各部署のみなさん

ニュースコーナー、インフォメーションコーナーは、各部署や本部各部から寄せられる記事によって成り立っています。各部署で作成した記事が、基本的にはそのまま掲載されますので、担当部署の記事にける思いが誌面に反映されているのです。



その② <特別記事>

執筆：担当者・編集スタッフ

特別記事は、全学的なイベントや学内の重要な話題などを、巻頭ページで特集するものです。記事は、テーマとなる話題の担当者と学内広報の編集スタッフが協力して作成します。わかりやすい誌面にするために、文章や写真、図表などを、スタッフがパソコンを使ってレイアウトします。
(例：野口さん凱旋、アスベスト対策など)



その③ <UTカフェ:ご意見・ご感想>

執筆：教職員個人

UTカフェは、本学で働くみなさんに自由にご意見・ご感想を書いていただくコーナーとして、新しくできたコーナーです。

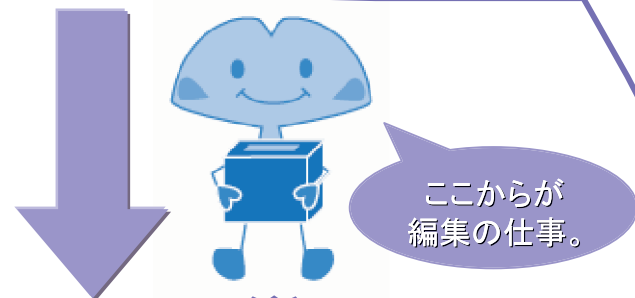
みなさんご自身の思いを、気軽にお寄せください。ペンネームでの掲載も可能です。投稿方法は23ページをご覧ください。

その④ <その他>

コラム・・・コミュニケーションセンターだより、Flagsなど
EVENT LIST・・・ホームページのEvent info、部局から寄せられた情報をもとに作成
淡青評論・・・学内の教職員のリレーコラム など

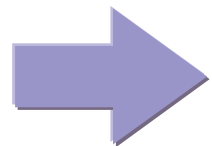
木曜日

編集作業



集まってきた記事を右の基準に従ってチェックし、必要な場合は執筆担当者と連絡を取りながら、内容の確認・修正を行なっていきます。また、どの記事がどのコーナーに掲載されるものかを整理して、記事の配置を決めます。

学内広報は表紙から裏表紙まで合わせて、必ず4の倍数のページでできている冊子ですので、レイアウトには工夫が必要です。



記事をお送りいただく際の方法などをあらかじめ分かりやすくお示すため、下記のとおり記事の提出要領を作成しました。ニュースページ及びインフォメーションページに掲載する記事をご提出いただく際には、こちらの提出要領によりお送りくださるようお願いいたします。

なお、「提出の際の留意事項」によらない原稿については、掲載ができないというのではなく、編集段階において適宜修正の上、掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

「学内広報」ニュースページ、インフォメーションページへの記事提出要領

1. 提出方法 記事は、各部局の広報担当者をとおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。
2. 提出先 総務部広報課 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
3. 締切日 原則として各月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。
ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認すること。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html（トップページ>広報・情報公開>学内広報）
4. 提出の際の留意事項
 - (1) 文字数 文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。
 - (2) 写真
 - ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
 - ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを送付すること。
 - ③ 写真は電子データがない場合プリントのものも掲載可とする。
 - (3) 書式
 - ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合はこの限りではない）。
 - ② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。
 - ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。
 - (4) 文章表現のきまり
 - ① 既に行われた行事や決定した事項などの報告記事は、「である調」を用いること。
 - ② これから行われる行事や募集などのお知らせは、「ですます調」を用いること。
 - ③ 句読点は「、」「。」を用いること（「、」「.」は用いない）。
 - ④ 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
 - ⑤ このほか、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とするなど、表記の統一のための修正を編集段階において行う。
5. 問い合わせ先
総務部広報課広報企画チーム
TEL : 03-3811-3393 内線22031 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

翌週

月～水曜日

校正

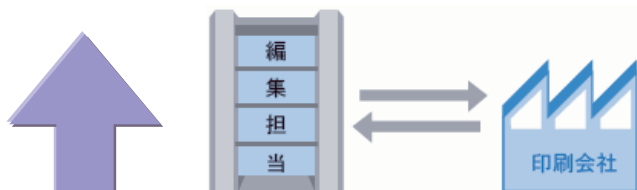
印刷会社がテスト製作した誌面（ゲラ）をチェックし、間違いがあれば修正するというやりとりを2～3回繰り返し、原稿の締切日からちょうど1週間後に誌面が確定します。

翌々週

火曜日

納品・配布

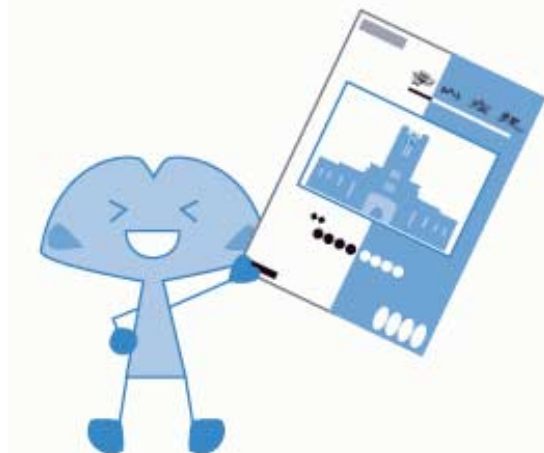
いよいよ完成！印刷された「学内広報」が納品されます。各部局にも一斉に送付され、皆様の手元に「学内広報」が届きます。



金曜日

入稿

すべての記事のチェックも終わり、ページ構成も完成した形で、印刷会社に原稿を渡します。



NEWS

部局 ニュース

大学院人文社会系研究科・文学部

公開シンポジウム「ケアと自己決定」
開催される

文学部の「応用倫理教育プログラム」と21世紀COEプログラム「死生学の構築」とが共催する公開シンポジウムとしては三回目となるシンポジウム、「ケアと自己決定」が11月26日（土）、開催された。



テーマに合わせて医学部2号館本館大講堂で行われた

自己決定という問題は、本COE主催のシンポジウム等で繰り返し主題とされてきた論点のひとつであり、他方、「ケア」をめぐる諸問題は今日さまざまな場面で提起され、焦点化されているもののひとつである。ケアをたんに一方的にとらえるのではなく、ケアする者、ケアされる者との関係において、またそれを取り囲む社会的・共同的なコンテキストから考える場合には、ひとはみなケアと自己決定をめぐる問題の潜在的な当事者にはかならない。ここから議論が始まった。



通路と床を埋め尽くす聴衆。質疑を経て盛会となった

立岩真也氏は「障害者運動の歴史から」という副題で、障害者運動に伴いつづける過程で紡がれた氏の思考のエッセンスを語られた。わけても最後に、「死にいたる微弱な生」をべつのかたちで受容し承認するという課題に言及されたのが印象的であった。川本隆史氏は自分史から説きおこされながら、正義論研究から出発した氏が現在「ケア」と「自己決定」をめぐり、主として「高齢者介護」の問題場面を中心にどのようなスタンスをとろうとしているかを報告された。清水哲郎氏は「医療現場から」ケアと自己決定というテーマをそもそもどのようにとらえるかを、意思決定のプロセスに関する「説明－同意モデル」に替わるべき「情報共有－合意モデル」の説明からはじめられ、コミュニケーションとケアを主題化する議論を展開された。

鷺田清一・上野千鶴子両氏のコメントを経て、総合討議へと進み、満場を埋め尽くした大勢の観衆を交えた質疑を経て、本シンポジウムは盛会のうちに終了した（議論の詳細は、刊行予定のブックレットに譲る）。

大学院農学生命科学研究科・農学部

「浜名湖をめぐる研究者の会」開催

農学生命科学研究科附属水産実験所では、恒例の「浜名湖をめぐる研究者の会（通称浜めぐ）」の第14回ワークショップを12月10日（土）に開催した。研究者の会だが、誰でも参加、発表できる地域に開かれた会で、ポスター発表24題と77名の参加があり、まずまずの盛況だった。

一般市民、大学、県の試験場、企業等、発表の中心は浜名湖の環境保全と激減してしまった漁獲量の回復である。はっきりしているのは昔に比べて増加した海水の流入量だが、最も漁獲量の多かった1980年頃と今とは大きな差がなく、理想の環境を推定するのも難しそうだ。



研究発表のポスターを前に議論を交す参加者たち

高校生からはアカテガニの生態についての詳細な研究発表があり、皆の絶賛を浴びた。アカテガニはかつては水産実験所の室内にも平気で入ってくるくらいに普通にいたのが、実験所敷地内の小さな干潟をコンクリートの水路にしてしまったために全く目にするのがなくなった（念のため、この工事を施したのは東大ではない）。

総合討論の後は発表会場がそのまま懇親会場へ。会費500円の質素なものであったが、海水化の象徴である浜名湖のタコを使ったたこ焼きなどで大いに盛り上がり、議論は深夜まで続いた。こうした議論の結果をどのようにして実地の場に生かしていくのが、今後の重要な課題である。

史料編纂所

ひらめき☆ときめきサイエンス

「史料からみる日本の歴史」を開催

史料編纂所では、日本学術振興会の平成17年度「研究成果の社会還元・普及事業 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に応募し、12月17日(土)、「史料からみる日本の歴史」を開催した。

本プログラムは、特別推進研究(COE)「前近代日本史料の構造と情報資源化の研究」(平成12～16年度)の成果の社会還元の一環として、高校生と引率教員(歴史教育担当)を対象として計画した。



高校生との懇談風景



「教科書に出てくる史料の本物を見てみよう！」で説明を受ける高校生

プログラムは次の通りである。

●講演(史料研究の世界へ)

石上英一「僕は奄美諸島史を知りたい」

林 讓「今日は、自分の花押(サイン)を作って帰ろう」

横山伊徳「モノノミカタが変わるとき」

●史料展示

「教科書に出てくる史料の本物を見てみよう！」

国宝島津家文書の刀狩令、倭寇図巻(複製本)などを展示

●史料保存技術への招待

谷昭佳「歴史研究の裏側ー伝統技術とサイエンスの融合(写真)ー」

高島晶彦「史料編纂所における修復について」

●史料研究室への招待

(予め希望を聞き4室に分かれて受講)

稲田奈津子「墓からみた古代社会」

本郷恵子「中世史料の姿をみるー將軍の文書から百姓申状までー」

杉森玲子「江戸の町と安政大地震」

木村直樹「江戸時代の日本と外国との関係ーどんな人がきたのだろうか?ー」

●フリートーク、未来博士修了証授与式



修了証書授与

参加者は、10校から39人（生徒29人、教員10人）であった。参加者へのアンケートでは、96%が「面白かった」との評価が寄せられた。フリーターキングでも活発に質問が出された。

パンフレット『史料からみる日本の歴史—東京大学史料編纂所所蔵の名品—』を作成し、受講生に配布した。パンフレットには、教科書に出てくる史料など22点のカラー図版と解説を掲載した。講義内容とパンフレットは、1月12日（木）から、史料編纂所のホームページで公開している。

<史料からみる日本の歴史HP>

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/science/index.html>



琴、三絃、尺八による越後獅子

海洋研究所
海洋研究所で新春邦楽コンサートを
開催

1月17日（火）夕方、海洋研究所講堂において邦楽コンサートが行われた。

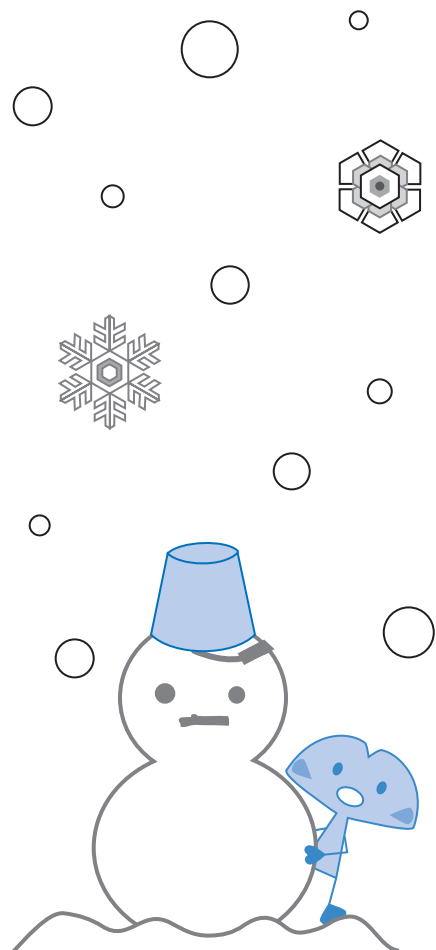
演奏は、本所大学院生2名（箏）、教員（尺八）及び著名な演奏家3名の方々に特別出演（箏、三絃、尺八）をお願いし、春の海、越後獅子、絵夢などの伝統ある9曲の演奏が行われた。



花かげ変奏曲に聴き入る観客

会場には、この時期修士、博士論文の執筆、発表の準備等で忙しい時にもかかわらず、このような日本の伝統文化から程遠い生活を送っている多くの大学院生の姿も見られ、約140名を超える老若男女が普段の研究や勉強では得がたい楽しい伝統文化を経験した。

この演奏会は、留学生や海外からの研究者にあってはなおのこと、若い人たちに日本の邦楽に親んでもらう良い機会となった。



キャンパス ニュース

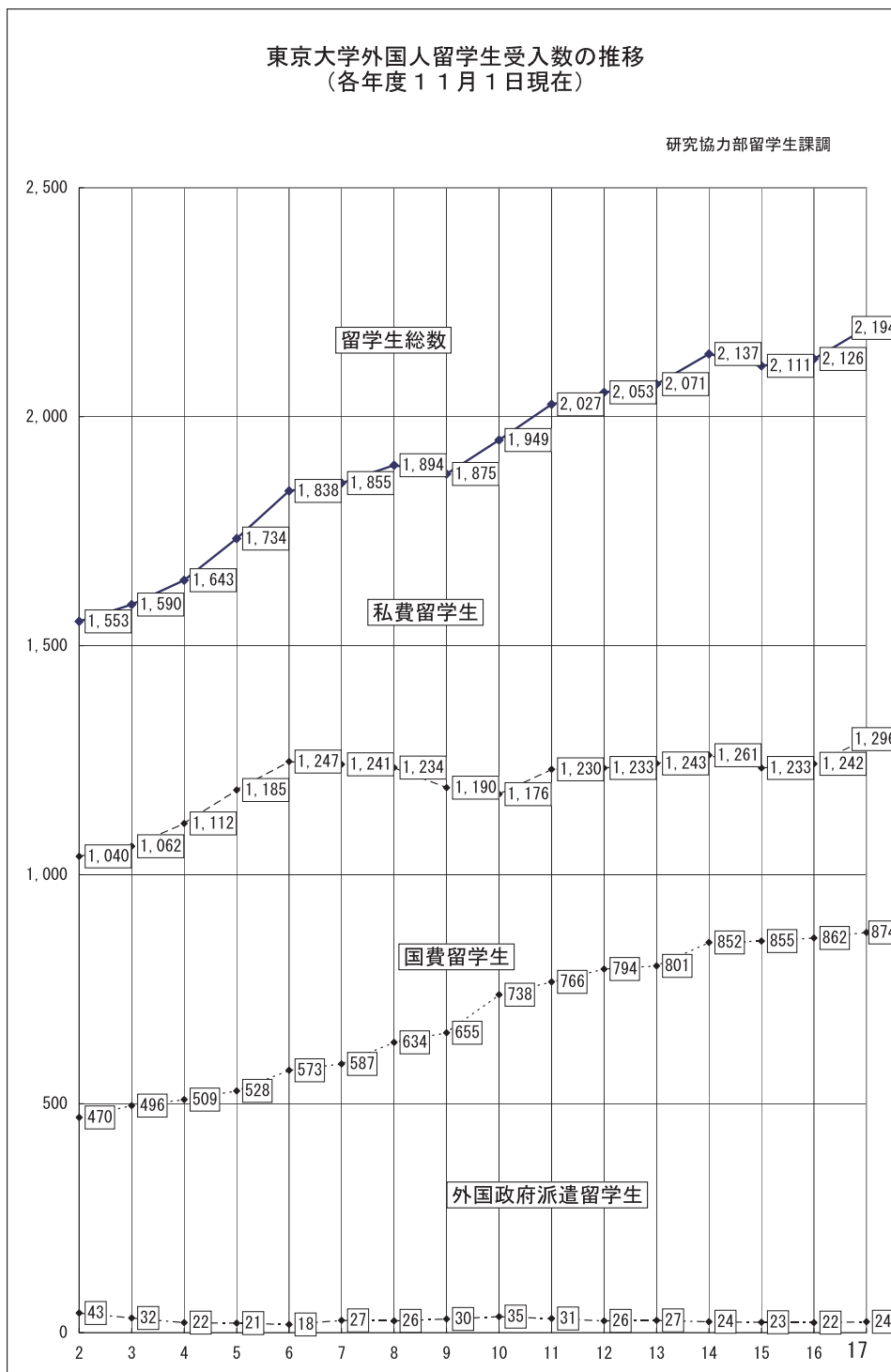


研究協力部

平成17年度外国人学生数



本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。平成17年11月1日現在の外国人学生数は、国費外国人留学生数874人、私費外国人留学生数1,296人 外国政府派遣留学生数24人、在日外国人学生数137人であった。詳細は次頁以降のとおりである。また下のグラフは、各年度11月1日現在の外国人留学生数の推移を示したものである。



平成17年度 外国人学生数

平成17年11月1日現在

区分	学部						大学院						合計			
	学生		研究生等		修士課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生				研究所	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国費(a)	75	47	0	0	141	76	249	117	98	71	0	0	0	0	563	311
	122		0		217		366		169		0		0		874	
外国政府派遣 シンガポール	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	4		0		0		0		0		0		0		4	
外国政府派遣 タイ	5	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	6	3
	6		0		1		1		1		0		0		9	
外国政府派遣 マレーシア	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	1		0		0		0		0		0		0		1	
外国政府派遣 韓国	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1
	10		0		0		0		0		0		0		10	
計(b)	18	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	19	5
	21		0		1		1		1		0		0		24	
私費(c)	48	35	19	12	185	152	355	238	80	101	2	3	4	2	693	543
	83		31		337		593		181		5		6		1,236	
小計(d)(a)+(b)+(c) (在留資格「留学」の者)	141	85	19	12	326	229	605	355	178	173	2	3	4	2	1,275	859
	226		31		555		960		351		5		6		2,134	
私費(e) (在留資格「留学」以外の者)	7	1	1	0	5	5	13	14	4	8	0	0	2	0	32	28
	8		1		10		27		12		0		2		60	
外国人留学生合計(f) (d)+(e)	148	86	20	12	331	234	618	369	182	181	2	3	6	2	1,307	887
	234		32		565		987		363		5		8		2,194	
在日外国人学生(g)	72	13	0	0	21	7	19	4	0	1	0	0	0	0	112	25
	85		0		28		23		1		0		0		137	
外国人学生 総計(f)+(g)	220	99	20	12	352	241	637	373	182	182	2	3	6	2	1,419	912
	319		32		593		1,010		364		5		8		2,331	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成17年11月1日現在

区分	学部				大学院								小計		合計
	学生		研究生等		修士課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生		研究所		
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
法学部	6	5											6	5	11
医学部															
工学部	37	31		6									37	37	74
文学部	4	2											4	2	6
理学部	3	6											3	6	9
農学部	2	2		3									2	5	7
経済学部	6	9											6	9	15
教養学部	62	56		23									62	79	141
教育学部															
薬学部	2	1											2	1	3
小計	122	112		32									122	144	266
人文社会系研究科					11	24	17	54	28	30	1		56	109	165
教育学研究科					4	14	9	20	3	8			16	42	58
法学政治学研究科					9	12	4	11	12	15			25	38	63
経済学研究科					7	3	2	13	5	2			14	18	32
総合文化研究科					25	36	28	81	25	22	1		78	140	218
理学系研究科					8	4	11	19	5	3	1		24	27	51
工学系研究科					80	120	167	202	31	46			278	368	646
農学生命科学研究科					14	37	43	60	18	18	2		75	117	192
医学系研究科					4	16	25	86	11	22			40	124	164
薬学研究科					2	4	1	5	3	2			6	11	17
数理科学研究科					2	2	7	4	2				11	6	17
新領域創成科学研究科					24	33	23	29	6	5			53	67	120
情報理工学系研究科					18	21	26	30	14	4			58	55	113
学際情報学府					5	13	3	7	6	17			14	37	51
公共政策学教育部					4	9							4	9	13
小計					217	348	366	621	169	194	5		752	1,168	1,920
医科学研究所											5			2	2
地震研究所															
生産技術研究所														5	5
分子細胞生物学研究所															
物性研究所															
海洋研究所															
先端科学技術研究センター															
小計															
合計	122	112		32	217	348	366	621	169	194	5	8	874	1,320	2,194

(注)①外国政府派遣留学生は、私費の欄を含む。

(注)②法学政治学研究科専門職学位課程学生1名及び公共政策学教育部専門職学位課程学生13名は、修士の欄を含む。

全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生 (人)	C/A 比 率	平成16年度 比 率
学部レベル	14,769	14,441	266	1.80%	1.75%
大学院レベル	13,663	11,690	1,928	14.11%	14.29%
計	28,432	26,131	2,194	7.72%	7.59%

※全学生数欄には在日外国人学生を含む。

※研究所に所属する外国人研究生は、大学院レベルを含む。

※比率欄の数は四捨五入。

国又は地域別外国人留学生数

平成17年11月1日現在

国名又は地域名	国				私費				合計					
	学部		大学院等		学部		大学院等		学部		大学院等		合計	
	学生	研究生等	修士	博士	学生	研究生等	修士	博士	学生	研究生等	修士	博士		
アジア														
インドネシア	1	5	1	7			5	2	1			6	7	2
インド		5	2	7			1	1				1	6	2
ネパール	1	7		9			7	3				8	10	19
バングラデシュ	4	18	1	24			6	10	1			10	28	2
ミャンマー	7	5	1	15			11	6				18	11	1
タイ	4	2		6			2	2				6	4	10
マレーシア	10	33	12	62			7	15	2			14	48	14
シンガポール	3	6	1	15			1	6				4	12	1
インドネシア	3	7	1	11			6	2				9	9	20
フィリピン	14	15	4	41			2	8	4			10	23	8
中国(香港)	6	10	4	22			1	4	1			9	14	5
中国	1	1	1	3				2				1	3	1
韓国	47	68	30	157			24	191	46			101	259	76
モリタ	4	2	1	20			1	3				13	5	24
ベトナム	12	9	2	55			1	20	1			33	29	3
中国	21	72	24	120			5	231	77			71	303	101
インドネシア	5			8			1	1				3	1	10
フィリピン				3				1				1	1	1
タイ	1			3			3	3				3	4	7
マカオ							1		1			1	1	1
台湾							38	57	24			38	57	24
小計	92	265	84	585	110	13	329	565	158	119	202	473	830	242
中近東														
イラン	3	5	1	10			1	6				3	11	1
トルコ	4	9	3	17			1	5	2			1	14	5
レバノン		2		2									2	2
イタリヤ			2	2				2					2	2
サウジアラビア		1		1									1	1
アラブ首長国連邦			1	1										1
オマーン			1	1										1
小計	4	17	8	34	2	13	2	13	2	17	4	7	30	10
アフリカ														
エジプト		2	2	4				3	1	4			2	5
スーダン	1			1									1	1
チュニジア			1	1										1
アルジェリア								1		1			1	1
ケニア								1		1			1	1
コンゴ民主共和国														1
ナイジェリア	1			1					1	1			1	1
セネガル	2			2									2	3
エチオピア	1			1									1	1
ウガンダ							1						1	1
小計	7	2	1	10			2	5	2	9	4	9	7	3
小計	99	277	95	671	112	13	331	570	160	136	206	482	860	245

国又は地域別外国人留学生数

平成17年11月1日現在

国名 又は 地域名	国			私			公			合計			総計	
	費			費			費			費				
	学部 学生	大学院等 修士	博士 研究生等	学部 学生	大学院等 修士	博士 研究生等	学部 学生	大学院等 修士	博士 研究生等	学部 学生	大学院等 修士	博士 研究生等		
オセアニア														
オーストラリア	5	1	3	1	1		1	1		5	1	1	3	6
ニューゼaland	1	3	1	1	1		1	1		1	1	3	2	1
ハワイ							1							1
小計	6	4	4	2	1	1	2	1	1	6	2	5	5	7
北米														
カナダ		2	4	1	1		2	2			2	4	6	3
アメリカ合衆国		6	7	8	8	21	1	4	4	1	4	10	14	17
小計		8	11	9	28		1	6	6	1	6	14	20	20
中南米														
ブラジル			5	1	6								6	1
コロンビア			1	1										1
ペルー	1	8	7	3	19		2	1	1	1	10	8	4	23
パラグアイ	2				2					2			1	3
ウルグアイ			1		1								1	1
ボリビア		1	2		3			1					3	4
チリ		1	3		4							1	3	5
ベネズエラ		1	1		2		1					1	2	1
コロンビア		2	2		4		1					3	2	5
ペルー		2	1	2	3		1					1	1	2
ベネズエラ		2	1	2	2							2	2	2
トミンカ			1		1								1	1
小計	3	15	23	7	48		1	4	4	3	1	19	27	8
日-ロツパ														
スウェーデン			1		1		1						2	7
ノルウェー		1		1	2							1	1	2
デンマーク			1		1		1						2	3
フィンランド		1		3	5		1	3		1	1	4	4	10
アイスランド							1						1	3
ベルギー							1						1	1
ルクセンブルク			2		4								2	6
オランダ			2		4								2	6
ドイツ		1	7	3	11		3	4				3	11	12
フランス		9	7	9	25		3	1				10	9	13
スペイン		1	2	3	6		1	2				2	4	4
ポルトガル		1	1	2	4			1				1	1	3
イギリス		1	1	5	7			2				1	3	6
ギリシア			1		1								1	1
オーストリア			3		6								3	3
スイス		1	2	3	3		1	1				1	3	2
ポーランド		3		3	6							3	3	6
チェコ		2	1	1	3							2	2	1
ハンガリー	3	2	1	4	10					3		2	2	4
セルビア・モンテネグロ		1			1							1	1	2

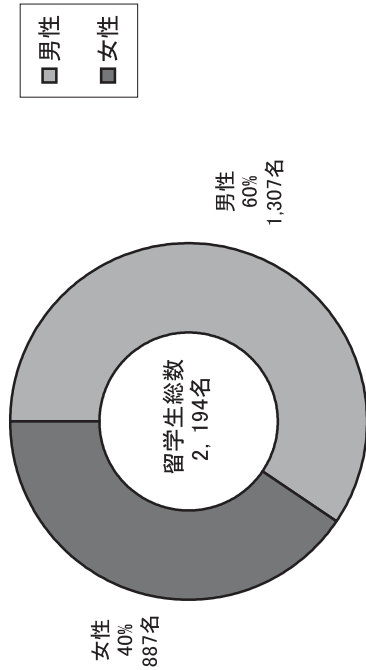
国又は地域別外国人留学生数

平成17年11月1日現在

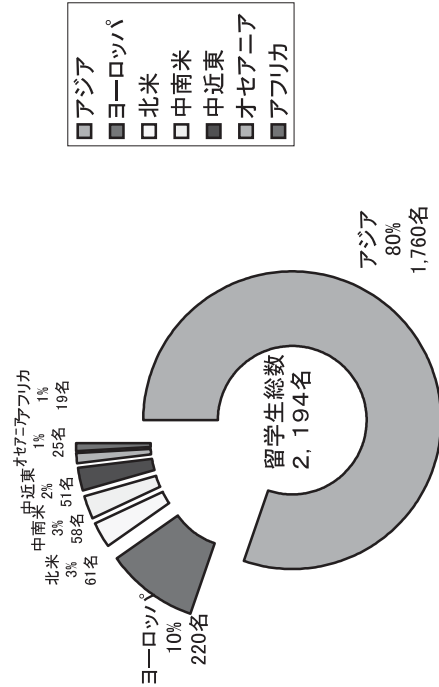
国名又は地域名	国				私				合計					
	学部		大学院等		学部		大学院等		学部		大学院等		総計	
	学生	研究生等	修士	博士	研究生等	修士	博士	研究生等	学生	研究生等	修士	博士		
ルーマニア	3		5	2										
ブルガリア	5		1	2				1						
アルバニア				1										
ロシア	3		3	3			1	4						
エストニア			1											
スロバキア														
ウズベキスタン														
カザフスタン	3							1						
ベラルーシ				1										
クロアチア				1										
スロベニア														
マケドニア			1											
ボスニア・ヘルツェゴビナ				1										
ウズベキスタン	17		34	44	53		4	24						
小計	122		217	366	169		348	621		207				
合計														
合計	18	10	38	68	86	220	234	32	565	987	376	2,194		

[8 8 力 国 ・ 地 域]

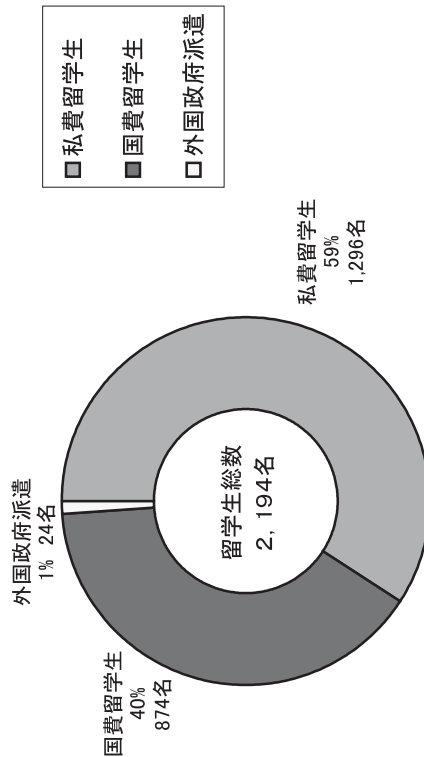
平成17年度外国人留学生男女別内訳



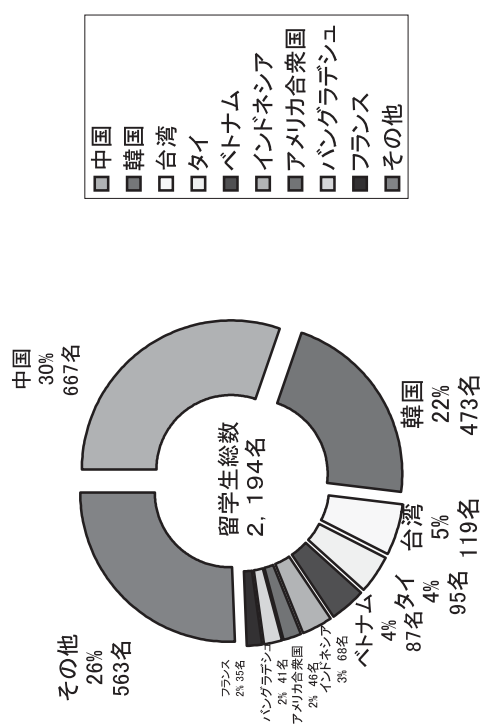
平成17年度外国人留学生地域別内訳



平成17年度外国人留学生種別内訳



平成17年度外国人留学生国籍別内訳





教育学部附属中等教育学校で副学長授業が行われる

12月2日（金）に中等教育学校において、本学副学長の古田元夫教授による『ベトナムの魅力』の講義が行われ、100名を越える多くの生徒・教職員・保護者が聴講しました。

古田先生が魅了されたベトナムは「異質なものととの並存とゴチャゴチャの活気」に特徴があるそうです。その歴史や文化、日本との関係や現在の経済状況など様々なことについてわかりやすく講義して下さいました。

まず、ベトナムは紀元前111年から後938年まで1000年以上にわたる期間と、1407年～28年までは中国王朝の支配下にあり、さらにフランスが1858年に侵略を開始し、1940年には日本軍も進駐するという列国による侵略の歴史に特徴があります。

フランスによる侵略の結果、ベトナムの街には「コロニカル（植民地的）」な町並みが現在でも残っています。生徒から「植民地の象徴的な建物を残していることに問題はないのか」と質問ができました。「オペラ座を模した建物などは、観光のスポットとなるなど、民族解放運動のシンボルとして活用しているほど嬉しいところもある」というのがその返答でした。



講義の様子

また、「アオザイ」と呼ばれる伝統的な女性の衣装は「雅」をよしとした王様が導入したものです。しかしフランス植民地時代に近代的ファッションとして改良され、現在においても色とりどりの優雅さが保たれているという説明もして下さいました。

1945年に「ベトナム民主共和国」として独立しました。現在では人口約8000万人（キン族が90%を占め、53の少数民族）の国家になっています。ベトナムの外交は「過去を閉ざし未来を志向する」というスローガンを掲げて、1995年までに国際的孤立を脱出し、「ドイモイ（刷新）」のもと順調な経済成長を遂げているそうです。日本は最大の援助供与国であり、重要な貿易相手になっています。

2時間に及ぶ講義でしたが、世界史選択の4・5年生が多かったため、生徒たちは真剣なまなざしで講義を受けていました。

（教育学部附属中等教育学校 野崎雅秀）

教育学部附属中等教育学校の顯谷伊織さんが国際バレエ・コンクールで特別賞受賞

2005年8月に行われた第10回アジア・パシフィック国際バレエ・コンクールで、教育学部附属中等教育学校の顯谷伊織（あらいいおり）さん（2年生）がファイナリストになり、出光興産特別賞を受賞しました。



バレエ・コンクールで演技する顯谷伊織さん

このコンクールにはオーストラリア、モンゴル、シンガポールなど多くの国が参加しています。顯谷さんは日本人出場者の中で決勝上位入賞者1名に選ばれ、オーストラリアバレエスクールに入学を許可され、オーストラリアへの渡航費も支給されました。

顯谷さんは3歳のときバレエに出会い、5歳からレッスンを始めました。小学校3年生の時に初めてトゥシューズを許され、この頃から週5回スタジオに通うようになったそうです。初めの2年間は全国バレエ・コンクールに予選敗退したもの、小学校4年生で第5回NBA全国バレエ・コンクールに入選。その後次々とコンクールで入選を重ねてきました。

2005年3月には日本バレエ協会公演『ドン・キホーテ』に子役のソリストとして出演し、プロのダンサー達と舞台上に立つことができました。顯谷さんは「バレエをしていて一番楽しいのはお客さんに拍手をもらえた時。『ドン・キホーテ』では初めてのオーディションでたくさんの人の中から選ばれ、ソリストになれたのが嬉しかった。」と話しています。

今年1月からのオーストラリアへの留学が決まっています。

（教育学部附属中等教育学校 松村厚子）

少林寺拳法部

○少林寺拳法とは？

少林寺拳法という言葉を目にしたことがある方は多いと思いますが、実際にどのような武道か知っている方は多くないと思います。少林寺拳法とは、戦後に日本で創始された護身術です。技の系統は、打撃技を中心とする「剛法」、関節技・投げを中心とする「柔法」、身体の秘孔を利用する「整法」の三つに分類されます。これらの技の応用として「演武」があります。演武とは、剛法・柔法の二系統を取り入れ、技の素早い応酬を繰り返すものです。更に我が部では、より実践的な練習として「剛法運用」を行っています。剛法運用とは、グローブ・サポーター類を装着して、実戦形式で、習得した技の運用を行うものです。

○活動内容

我が部の特徴として挙げられるのは、初心者でも活躍できるということです。毎年新入部員の8割以上は未経験者です。しかし、眞田玉雄監督(正範士七段)の指導の下、科学的・合理的な練習を積み重ねることで、大会で優秀な成績を収めることができます。我が部は昨年の関東学生大会において、日本体育大学や国際武道大学といった強豪を抑えて総合3連覇を達成しました。また、大会での活躍が称えられ、平成15年には運動部として初の総長賞を頂きました。現在我が部は、部員全員が一丸となって、関東学生大会での4連覇に向けて日々練習に励んでいます。皆様応援の程、宜しくお願い致します。(少林寺拳法部 山野 龍一)



★★★DATA★★★

創立：昭和38年同好会設立
昭和41年東京大学運動会傘下の運動部に認可
人数：64名(男子53名、女子11名)
練習場所：駒場地区第一体育館柔剣道場
練習日：火・木・土 各2時間
年間予定：4月 新入生歓迎合宿
5月 関東学生大会
6月 強化合宿
7月 七大戦
8月 夏合宿
9月 秋合宿・練馬区民大会
11月 全日本学生大会
12月 冬合宿
3月 本部合宿
今年度の成績：関東学生大会総合優勝(3年連続14回目)
優勝3部門 準優勝4部門 入賞9部門
部長：武藤芳照(大学院教育学研究科教授)
総監督：滝田清臣(少林寺拳法部第1期主将)
監督：眞田玉雄
(東京大学体育指導員・少林寺拳法世界連合指導員)
HP：<http://shorinji.web.infoseek.co.jp/>

ヨット部ディンギー班

『かっつべ青春』

ヨットというスポーツは日本ではあまり認知されていませんが、海外ではメジャーなスポーツで、オリンピック競技にもなっています。ヨットは基本的に風の力だけで進み、



速く進ませるにはかなりの技術が必要です。しかし、乗るだけなら1日で乗れるようになります。つまり、初心者から楽しめ、それでいて奥が深いスポーツ、というわけです。また、知力も問われる競技なので体力にあまり自信がない

人や女の子でも十分活躍できます。実際、全日本選手権などは男女の区別がありません。ヨットの最大の魅力は、大自然の中でスポーツできるということです。風が強いときは時速50キロものスピードで海の上をかっつべ、とてもエキサイティングです。また風が弱いときはおだやかな海がとても気持ちいいのです。

『日本一を目指して』

近年は部員不足に悩み、それに伴って競技性のレベルを上げるのにも困難がありました。昨年関東インカレ6位入賞、10年ぶりに470クラスで全日本インカレ出場を果たしました。昨年の主将の松本(工・4)を中心に、ヨットに集中する環境を作ることができたことが大きいと思います。新体制になっても、レースで活躍するために、毎週土日2日間の練習をどう効率よくこなすか、そのためには平日をどのように過ごせば良いか、部員全員が意識的に日々の生活を送っています。



新主将の高橋(文・3)の下、今年も全日インカレに出場し、日本一を目指してさらなる飛躍をしたいと思います。乞うご期待！(ヨット部ディンギー班 太田 誠)

★★★DATA★★★

創立：昭和9年
人数：15名(選手11名、マネージャー4名)
練習場所：八景島シーパラダイス 葉山森戸沖
練習日：土・日
年間予定：4~5月 春季関東学生インカレ 春季六大学戦
7月 七大戦
8月 関東個人選手権
9~10月 秋季六大学戦 国公立戦
秋季関東学生インカレ
11月 全日本学生インカレ
12月 東北大定期戦
今年度の成績：秋季関東学生インカレ6位入賞
七大戦470級優勝
部長：伊藤 眞(大学院法学政治学研究科教授)
総監督：安藤 淳
監督：田中克治
HP：<http://www.todaiyacht.jp/>

コミュニケーションセンターだより No.11

■ お客様にうかがいました！

コミュニケーションセンターには、毎日、たくさんのお客様がいらっしゃいます。そこで今回は商品をお買い上げになったお客様に突撃インタビュー！

「御酒（うさき）を買いました。知人への贈り物用です。息子が東大の大学院に通っているの、このことは知っていましたよ。今日は買ってよかったわ」（50代・女性）

「去年から御酒に目をつけてたんですよ。親からも『ぜひ買って来い』と言われていたし。今日は本郷で授業があったので買いにきました」（工学部2年生・男性）



「留学生です。大学院に通ってます。御酒はおみやげ用に買いました」（大学院生・女性）

御酒は学生さんにも学外の方にも大人気ですね。思っていたらTシャツをお買い上げになった男性が……。

「たまたま出張で東京に来たので、ついでに東大に来てみました。灘中学に通う息子が東大を目指しているの、おみやげにここでTシャツを買ったんですわ。私は慶応出身なんやけどね」（40代・男性）

それはそれは遠くからありがとうございます。

「東大の卒業生です。数年ぶりに大学に来てみたらこんなところができていたからビックリ！ 私は美術館の学芸員なのですが、なかなか美しく展示してあって良いと思いますよ」（20代・女性）



アートの専門家にそんなふうには言っただけのなんて光栄です。最後はロボットの臍次君をしげしげと眺めていた、女子高生&母親とおぼしきおふたり。

「今日は東大病院に来た帰りです。東大なんて滅多に来ないんだけど……こんな、綺麗なお店があるなんて！」（40代・女性&10代・女性）

実に様々なお客様が訪れるコミュニケーションセンター。これからも多様なニーズに答えるべく努力してまいります。（担当：渉外本部 曾我）



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

研究協力部

サステナビリティ学連携研究機構（IR3S） 公開シンポジウム開催

昨年8月本学に設置された「サステナビリティ学連携研究機構」（IR3S）は、京都大学、大阪大学、北海道大学、茨城大学など、わが国の優れた研究機関との連携により、サステナビリティ学（sustainability science）創生のための世界的なネットワーク型研究拠点の形成を目指しています。

本連携研究機構では、サステナビリティ分野で先端的な研究成果を収めつつある世界の研究機関とも協調しながら、地球持続性の鍵を握るアジアの現場における問題解決の途を探るために、「東アジア研究型大学協会」（AEARU）と「日本経済新聞社」の共催で、公開シンポジウム「サステナビリティ学が拓く地球と文明の未来」を開催します。

本公開シンポジウムでは、これに先立って行われる国内外の著名な研究者による2日間の専門家会合を受けて、小池百合子環境大臣を迎え、新たな学術体系としての「サステナビリティ学」の創生、21世紀循環型社会・脱温暖化社会の展望、地球持続戦略の構築等について、記念講演・基調講演と総合討論を通じて検討します。ふるってご参加ください。

文部科学省科学技術振興調整費
(戦略的研究拠点育成) プロジェクト
サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)
公開シンポジウム

「サステナビリティ学が拓く地球と文明の未来」

- 日時：2月4日(土) 13:00～17:00
- 場所：安田講堂
- プログラム<同時通訳付>
(総合司会) 環境ジャーナリスト 幸田 シャーミン
13:00～13:10 趣旨説明
東京大学サステナビリティ学連携研究機構
(IR3S) 副機構長 武内 和彦
「サステナビリティ学の創生を目指して」
13:10～13:30 記念講演
環境大臣 小池 百合子
「サステナビリティ：21世紀・日本の挑戦」
13:30～14:05 基調講演
東京大学総長/サステナビリティ学連携研究機構
(IR3S) 機構長 小宮山 宏
「サステナビリティ学の創生：『課題先進国』日本
からの発信」
14:05～14:40
ロッキーマウンテン研究所CEO
エイモリ・ロビンズ
「エネルギーの飛躍の効率化をめざす統合デザイン
ー21世紀循環型社会を展望するー」
14:40～15:15
京都大学経済研究所長 佐和 隆光
「地球温暖化対策の経済影響」
15:15～15:25 映像ショー
15:25～15:40 休憩
15:40～17:00
総合討論「地球持続戦略の構築を目指して」
東京大学工学系研究科教授
花木 啓祐 (モデレーター)
東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ
総括ディレクター 住 明正
中国科学技術大学学長 朱 清时
ロッキーマウンテン研究所CEO
エイモリ・ロビンズ
京都大学経済研究所長 佐和 隆光
- 申し込み：下記のページより事前にお申込みください。
<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/>
- 問い合わせ先：IR3S公開シンポジウム事務局
TEL：03-5281-1576 FAX：03-5281-1566
E-mail：ir3s@nikkeipr.co.jp

募集

募集

学生部

学生表彰「東京大学総長賞」の 推薦受付について

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を収めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成14年度から設けられています。

この表彰は、本学教職員・学生からの推薦に基づき、「東京大学学生表彰選考委員会」(以下「選考委員会」という。)が選考にあたり総長が表彰するものです。

選考委員会では、推薦された候補者の中からその内容を審査のうえ、「東京大学総長賞」として相応しいものが決定されます。

平成17年度第2回(春)の推薦受付について以下のとおりご案内します。

1. 提出物：別紙様式1(個人)又は別紙様式2(団体)に必要な事項を記入し、参考資料等を添付してください。また、書類の提出にあたってはホームページ上の「推薦書類の提出について」を参照してください。
2. 推薦基準：以下のとおりです。
3. 提出期限：3月1日(水)16時まで(必着)
4. 選考結果：3月上旬に推薦者及び選考対象者へご連絡いたします。
5. 授与式：3月23日(木)17時より、小柴ホールにて実施を予定しています。日程の詳細は決まり次第お知らせします。

◎詳細については、ホームページをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12_j.html

(提出先及び問い合わせ先)

学生部学生課学生生活チーム(担当：大八木・宮内)
内線：22529/22514
e-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



平成17年度第1回総長賞授賞式の様子

東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦基準

- (1) ①学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人又は団体
 ②学業において、学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人又は団体
- (2) 課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた個人若しくは団体又は課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人若しくは団体
- (3) 環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった個人若しくは団体又は社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (4) 大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人又は団体
- (5) その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人又は団体

上記基準による推薦者については、次のとおりとする。

基準(1)①

学部学生については学部長

大学院学生については研究科長・教育部の部長

基準(1)②及び基準(2)～(5)

自薦、他薦を問わない。

また、在学中の学業、課外活動、社会活動等の評価、活動実績等が上記基準に該当する者は、卒業又は修了後1年以内に限り選考の対象とする。

〔参考〕平成17年度第1回「東京大学総長賞」受賞者

授与式：第1回 平成17年10月11日(火)

17:00～19:30

場 所：大学院数理科学研究科大講義室
(駒場キャンパス)

(個人の部)

宮本 伸哉(医学系研究科博士課程3年)

自転車補助椅子の危険性および小児自転車ヘルメット着用の重要性に関する啓蒙思想を通じた小児社会福祉への貢献

筧 康明(学際情報学府博士課程2年)

インタラクティブな映像メディア技術の創出とアート表現への応用

(団体の部)

東京大学運動会ヨット部

2005年国際J24級世界選手権出場など優秀な成績

東京大学アマチュア無線クラブ

アマチュア無線コンテスト連続優勝ならびに無線通信の普及活動

『マンガ運動器のおはなし』学生制作委員会

『マンガ運動器のおはなし 大人も知らないからだの本』という小学生を対象とした書籍を通じて運動器機能の理解促進に貢献



お知らせ

お知らせ

退職教員の最終講義

今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義・講演について、下記のとおりお知らせします。

大学院工学系研究科・工学部

坂本 功 教授

(建築学専攻建築学大講座)

日時：2月17日(金) 15:00～17:00

会場：工学部1号館15番教室

演題：木造建築から学んだこと

大学院人文社会系研究科・文学部

似田貝 香門 教授

(社会文化研究専攻社会学講座)

日時：3月18日(土) 14:30～17:45

会場：医学部教育研究棟14階「鉄門記念講堂」

演題：「社会学35年—構造と主体をめぐる社会調査」

大学院薬学系研究科・薬学部

桐野 豊 教授(理事・副学長)

(機能薬学専攻・生体分子機能学講座・神経生物物理学教室)

日時：2月17日(金) 14:00～16:00

会場：薬学系研究科総合研究棟講堂

演題：連合学習の分子神経機構

お知らせ

附属図書館

総合図書館・常設展「犬」開催のお知らせ

今年の干支は戌。そこで、今年最初の常設展は干支にちなみ、総合図書館に所蔵する「犬」に関する資料を各種展示します。犬は洋の東西を問わず、古来より生活に密着した動物のためか多方面に取りあげられています。今回は、「南総里見八犬伝」関係資料をはじめとして、文学、博物学、理系等の分野から、見て楽しめる資料を展示しますので、是非ご観覧下さい。

電子展示も行っていますので併せてご覧下さい。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/tenjikai/index.html>



「今様八犬伝」

- 会期：2月1日(水)～3月20日(月)
- 場所：総合図書館3階展示コーナー
- 問い合わせ・連絡先：

総合図書館情報サービス課専門員

TEL：03-5841-2640(内線22640)

E-mail：srv.sen@lib.u-tokyo.ac.jp

今後の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1329	2月1日(水)	2月8日(水)	2月14日(火)
1330	2月15日(水)	2月22日(水)	2月28日(火)
1331	3月1日(水)	3月8日(水)	3月14日(火)
1332	3月15日(水)	3月22日(水)	3月29日(水)

山田正篤名誉教授

本学名誉教授山田正篤先生は、病氣療養中のところ平成17年12月16日（金）午後6時20分にご逝去されました。享年80歳でした。通夜は12月24日（土）、告別式は12月25日（日）に大田区東海の臨海斎場で行われましたが、山田先生を偲んで多数の方々が参列し、各方面でご活躍された先生のご逝去を悼みました。



先生は、大正14年9月26日東京都にお生まれになり、昭和23年9月に東京帝国大学医学部医学科を卒業され、東京大学伝染病研究所研究生および同医学部小児科学教室研究生を経て、昭和27年7月国立予防衛生研究所技術員、昭和28年7月厚生技官、昭和33年3月同研究所病理部一般病理室長に就任されました。昭和35年2月より米国コロラド大学医学部に留学して細胞生物学の研究に従事され、昭和35年3月に医学博士（東京大学）の学位を授与されました。帰国後（昭和36年11月）、国立予防衛生研究所病理部細胞病理室長となり、次いで昭和44年9月に東京大学教授（薬学部）に転任され、昭和61年3月に同大学を停年退官、同年5月に東京大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、永年にわたって生理化学・細胞生物学の教育・研究に務め、また、二百編以上に及ぶ研究論文等の業績を残されましたが、主要な業績としては、哺乳類細胞の細胞培養の普及とその応用、細胞レベルでの老化研究、遺伝子DNAの複製・修復及びクロマチンの動態の研究に分類することができます。

まず先生は、細胞増殖のメカニズムを、哺乳類培養細胞を用いて研究することが癌や老化の研究に必須であるという信念のもとに、細胞周期、ウイルス増殖、薬剤作用など、わが国における哺乳類細胞の培養とその医学・生物学への応用に先駆的な役割を果たしました。具体的には数多くの原著論文、参考書、総説等を執筆するとともに、日本組織培養学会や日本細胞生物学会などの学会活動と講演会を通して、多数の後進・同輩を直接・間接的に育成しました。

第二に先生は、早くからヒト2倍体線維芽細胞の試験管内老化が個体レベルでの老化の基礎となっていることを見抜き、精力的な研究を続けるとともに、その概念の普及に努めました。哺乳類において、細胞レベルの老化が個体レベルの老化を反映していることは現在では広く知られていますが、先生の現役時代、わが国の学界では日本基礎老化学会の中枢を中心として、細胞の老化と個体の老化は無関係であるとの見解が主流を占めておりま

した。しかし先生は自らの実験結果と鋭い洞察により、細胞老化の重要性を繰り返し説き、信念を曲げることがありませんでした。特に代表的な早老症であるワーナー症候群患者細胞と正常人細胞とのDNA複製能の違いに関する論文は、今日でも頻繁に引用されています。

第三の遺伝子DNAの複製・修復に関しては、哺乳類細胞のDNAポリメラーゼ α /プライマーゼ複合体、DNA依存性ATPアーゼ、DNAヘリカーゼ、DNAトポイソメラーゼ、一本鎖DNA結合タンパク質などのDNA複製酵素・タンパク質の分離・精製、マウス乳がん由来FM3A細胞を親株としたDNA複製に欠陥をもつ温度感受性突然変異株の分離と同定など、哺乳類細胞のDNA複製に関して自他ともに許す世界で有数の研究室を形成しました。特にDNA複製に中心的な役割を担う酵素の一つであるDNAポリメラーゼ α の温度感受性変異株の分離とそれを用いた本酵素の機能解析は、本酵素がDNA複製に必須であることを哺乳類細胞で遺伝学的に示したもので、世界的に高く評価されています。さらにマウスDNAポリメラーゼ α をポリメラーゼ・サブユニットとプライマーゼ・サブユニットとに分離した仕事も世界に先駆けた研究であり、広く引用されています。また分離核を用いた試験管内DNA修復系の構築と阻害剤を組み合わせ、修復に関与するDNAポリメラーゼの分子種に関する新たな発見を行ってきました。

第四のクロマチンの動態についても、遺伝学的手法と生化学的手法を併用し、真核細胞遺伝子に特有の構造であるクロマチンの凝縮に関係したヒストンH1のリン酸化、クロマチン形成を促進するタンパク質の分離とその性状解析など、いずれも学界の注目を集める研究成果を挙げられました。

以上の研究は極めて独創性の高いもので、細胞生物学、生物薬学、分子生物学の各領域において国内外の研究の進歩に大きな影響を与え、また将来にわたっても貢献の著しいものであります。教育者としても先見性に富む指導と人間味に溢れる人柄により、多くの後進を育成してきました。

また先生は、これらの学問的業績のほか、東京大学の学内においては評議員として、また諸々の委員会委員として大学の運営に参画するとともに、薬学部においては、薬学部長、大学院薬学系研究科委員会委員長として薬学部の運営・発展に尽力されました。学外においては、日本学術会議、科学技術庁の委員等として行政に寄与し、学界にあっては、日本細胞生物学会会長の要職を兼ね、わが国における細胞生物学の振興に測り知れない貢献をし、本分野の世界的な発展にも寄与されました。これら一連の研究業績とご活動に対して、平成15年4月29日付けで、勲三等旭日中綬章を授与されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。（大学院薬学系研究科）

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
ナノバイオ・インテグレーション 研究拠点設立記念シンポジウム ※1327号参照	2月3日(金) 13:00~	医学部鉄門記念講堂 (医学部教育研究棟14階)	ナノバイオ・インテグレーション研究拠点事務局 担当: ヤーネス TEL: 03-5841-1509 FAX: 03-5841-1510 e-mail: CNBI@cnbi.t.u-tokyo.ac.jp URL: http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBI/activities/sympo01/
産学連携フォーラム2006 ※1326号参照	2月3日(金) 13:30~	駒場リサーチキャンパス 駒場コンベンションホール 【An棟(総合研究実験棟)2階】	財団法人生産技術研究奨励会産学連携支援室 FAX: 03-5452-6096 e-mail: fpistol1@iis.u-tokyo.ac.jp http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/shourei/
学術講演会 「免疫と感染: 話題の創薬ターゲット」	2月4日(土) 10:00~	薬学系総合研究棟2F講堂	大学院薬学系研究科生体異物学教室 東伸昭 土屋容子 TEL: 03-5841-4870 e-mail: cancer@mol.f.u-tokyo.ac.jp http://www.f.u-tokyo.ac.jp/cancer/labpage/navigation/colloquium.html
サステナビリティ学連携研究機構(IR3S) 公開シンポジウム 「サステナビリティ学が拓く地球と文明の未来」	2月4日(土) 13:00~	安田講堂	サステナビリティ学連携研究機構(IR3S) http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/ 担当: 研究協力部 サステナビリティ学支援グループ 蔭山 内21386
フェムトワールドへの誘い	2月5日(日) 9:30~	大学院理学系研究科附属 原子核科学研究センター	大学院理学系研究科等研究協力係 TEL: 03-5841-8317 FAX: 03-5841-8777 nagata@adm.s.u-tokyo.ac.jp http://www.jsps.go.jp/hirameki/ht107_tokyo.html
第21回「人間の安全保障」セミナー 食・医療・環境・情報の安全をめぐる科学技術社会論 と「人間の安全保障」の課題	2月6日(月) 16:00~	駒場キャンパス18号館1階	「人間の安全保障」プログラム事務局 TEL: 03-5454-4930 e-mail: info@hsp.c.u-tokyo.ac.jp http://human-security.c.u-tokyo.ac.jp/events.htm
東文研シンポジウム 「アジアから問う幸福・その3」	2月7日(火) 15:00~	東洋文化研究所 第1会議室	東洋文化研究所 関本照夫 e-mail: sekim@ioc.u-tokyo.ac.jp http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
第119回東文研セミナー 「Beyond Eurocentrism: Reexamining Cultural Discourse Strategies to Overcome Eurocentrism in the Context of Polycentric Multiculturalism」	2月10日(金) 16:00~	東洋文化研究所 第1会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
第120回東文研セミナー 「民俗学の論点2005」	2月11日(土) 10:00~	東洋文化研究所3階大会議室 (出席者の人数により、同じ階 で部屋が変わることあり)	東洋文化研究所 菅豊 TEL: 03-5841-5875 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
21世紀COEものづくり経営研究センターシンポジウム 「ものづくり経営とひとつづくり」	2月16日(木) 13:00~	安田講堂	日経ビジネスクリエーション塾事務局 TEL: 03-5452-2505 受付時間: 10:00~17:00(土、日、祝日は除く) http://www.adnet.jp/nikkei/bizcre/04.html
日本社会研究情報センター 創立10周年記念シンポジウム	3月8日(水) 13:30~	山上会館	S S J データアーカイブ担当(福田) E-mail: ssjda-sympo@iss.u-tokyo.ac.jp http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/sympo20060308.html
原洋之介教授 最終研究報告 「アジア研究と経済学の狭間で」	3月16日(木) 14:00~	東洋文化研究所3階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
21世紀COEものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月~3月	三菱ビルコンファレンススクエ アエムプラス (東京駅丸の内南口)	ものづくり経営研究センター 03-5841-2272 http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
公開講座 「高校生のための金曜特別講座(冬学期) ※1319号参照	10月14日(金)~ 2月10日(金)	教養学部11号館2階1106教室	教養学部社会連携委員会「公開講座」担当係 03-5454-6637 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005winter.html
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
特別展示「アフリカの骨、縄文の骨一遙カラミダス を臨む」展 ※1326号参照	11月26日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
新「会社法」連続講義(全5回)	1/24(火)、1/26(木) 1/31(火)、2/2(木) 2/7(火) 各18:00~	法文1号館25番教室	社団法人商事法務研究会 http://www.shojihomu.or.jp/shinkaishahou.html TEL: 03-5614-5637 Fax: 03-5643-7186 e-mail: tokyo2006u@shojihomu.or.jp
21世紀COE国際ワークショップ International Workshop on Energy Budget in the High Energy Universe	2月22日(水)~ 24日(金)	柏キャンパス総合研究棟 6階大会議室	http://ebhu.astron.s.u-tokyo.ac.jp/index.html

編集後記

受験シーズンが始まり、本郷では商店街の主催で受験生を応援しようと街路樹がイルミネーションで飾られ、駅の天井や壁も桜模様で覆われました。本郷キャンパスに通う方はご覧になった方も多いのではないのでしょうか? そこには話題作りとは別の受験生たちへの愛情があるように思えて、受験生だった時期はとうに過ぎた私も少し嬉しくなりました。この季節が無事に過ぎ、入学試験に携わる教職員のみなさんの苦労も報われることを願っています。(み)

Contents

特別記事

学内広報ができるまで	2
------------------	---

NEWS

部局ニュース

公開シンポジウム「ケアと自己決定」開催される	4
「浜名湖をめぐる研究者の会」開催	4
ひらめき☆ときめきサイエンス「史料からみる日本の歴史」を開催	5
海洋研究所で新春邦楽コンサートを開催	6

キャンパスニュース

平成17年度外国人学生数	7
--------------------	---

コラム

◆(噴水)教育学部附属中等教育学校で副学長授業が行われる	15
◆(噴水)教育学部附属中等教育学校の顯谷伊織さんが国際バレエ・コンクールで特別賞受賞	15
◆Flags運動部紹介 No. 7	16
◆コミュニケーションセンターだより No. 11	17

INFORMATION

シンポジウム・講演会

サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)公開シンポジウム開催	17
--	----

募集

学生表彰「東京大学総長賞」の推薦受付について	18
------------------------------	----

お知らせ

退職教員の最終講義	20
総合図書館・常設展「犬」開催のお知らせ	20

訃報

山田正篤名誉教授	21
----------------	----

EVENT LIST

淡青評論

「学び方の幅」の拡充をボトムアップで	24
--------------------------	----

◆ 表紙写真 ◆ 総合図書館館内(20ページに関連記事)



ご意見・ご感想投稿大募集!

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能です。連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

投稿先メールアドレス → kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

- ①氏名・所属
- ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
(ペンネームは具体的に記入)
- ④タイトル(20字以内)
- ⑤本文(300字以内)

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください(⑤はなし)。



七徳堂鬼瓦

「学び方の幅」の拡充をボトムアップで

学部から大学院までの八年間を学んだ本郷キャンパスに、昨年四月赴任してきた。二四年ぶりになる。この四半世紀の間に、学生・院生の勉学条件は著しく改善された。言うまでもなく、その大きな要因はパソコンとインターネットの普及だろう。提出されるレポートや論文のほぼ全てがプリンターで印字されるようになり、手書きの苦労はなくなった。文献表の作成はいわゆる「芋ズル式」（適切な研究文献を手がかりとして、そこでの引用データから次ぎ次ぎに読むべきものを探り当てていくやり方）を旨とし、

現物に当たっていくほかなかったのを、今では各種データベースにキーワードや人名を入れるだけで形になる。単行本の所在や雑誌の受け入れ状況は、図書館に向いてカードや参考図書を繰らすとも、ネット上の検索で判明する。学外への文献コピー依頼もはるかに迅速・便利になった。しかもそうした作業は自宅や出先でも可能となり、大学に来なくても済む。

ということはキャンパスにいる時間は以前より自由に使えるはずだから、他学部・他研究科の授業を覗いたり、学生・院生同士の交流に努めればいい。前任教では大学院の演習の履修要件に“*homo sum ; humani nil a me alienum puto*”〔私は人間である。人間に関わることなら何でも自分に無縁であるとは思わない。〕という箴言をしっかりと実践し、専門分野以外にも貪欲な関心を保持していること」を掲げてきたし、こちらに移ってからそうした方針は変えていない。だがそもそも、「人間に関わることなら何でも」追究できるだけの「ゆとり」が、どれほど確保されているのだろうか。少々気になる。

そこで経済学者アマルティア・センが人びとの「暮らしよさ」をケイパビリティ（生き方の幅）の観点から捉え返そうとしたひそみに倣って、学生・院生の「学びよさ」を「学び方の幅」でもって再定義してみたい。「学び方の幅」を広げる試みとしては、ダブルメジャーや副専攻の導入が進行している。だが、こうした上からの制度改革に学生・院生が乗っかるだけでは「仏造って魂入れず」に終わりがかねない。単位にならない勉強会やインフォーマルな他流試合といったボトムアップ型の「横議・横行」（藤田省三『精神的考察』平凡社ライブラリー、一〇二頁）に支えられてこそ、「学び方の幅」は拡充するものだからである。

川本隆史（大学院教育学研究科）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1328 2006年1月25日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL : 03-3811-3393
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
http://www.u-tokyo.ac.jp